

いわや
岩屋ダムの防災操作について(速報)
まぜがわ ひがしくつべ
(馬瀬川(東沓部地点)の水位を0.55m低減)

みずしげんきこう
独立行政法人水資源機構の管理する岩屋ダムでは、西日本から東北地方に停滞した梅雨前線により、岩屋ダム流域で時間最大雨量43.8ミリ(25日10時)、降り始め(24日6時)から28日24時までの総雨量は349.3ミリを記録しました。

この降雨により、岩屋ダム貯水池に流れ込む水の量(流入量)が、7月25日20時30分に洪水流量(毎秒300立方メートル)に達したため、防災操作を開始しました。26日11時00分には、流入量が最大(毎秒約400.56立方メートル)となり、この流入量に対し、毎秒約100立方メートルをダムに貯めて、ダム下流の河川水位の低減に努めました。

これにより、ダム下流にある東沓部地点(下流基準点)において、約0.55メートル水位を低下させたと推定されます。

ダムへの流入量が最大となった時刻	同時刻におけるダムへの流入量	同時刻におけるダムの放流量	同時刻におけるダム貯留量
7月26日 11時00分	毎秒 400.56m ³	毎秒 296.97m ³	毎秒 103.59m ³

ひがしくつべ 東沓部地点の河川水位最高水位となった時刻	同時刻におけるひがしくつべ 東沓部地点の河川水位	ダムがなかった場合の同地点同時刻の水位	ダムによる水位低減効果
7月26日 8時30分	3.84m	4.39m	0.55m

- ※ ひがしくつべ
東沓部地点：下呂市金山町東沓部乙鳥水管橋下流(岩屋ダムから約9.3km下流、飛騨川本川合流点から約7.5km上流の地点)
- ※ 防災操作とは、岩屋ダムに流れ込む馬瀬川の水が、大雨によって毎秒300立方メートル以上に増加したとき、その水の一部を一時的に貯め込むことで、岩屋ダムから下流へ流す水の量を減らし、岩屋ダム下流の馬瀬川の水位を低減させることです。
- ※ 今回の発表は速報値であり、今後の精査によって数値等が変わることがあります。

令和2年7月30日



みずしげんきこう
独立行政法人 水資源機構
いわや
岩屋ダム管理所

発表記者クラブ

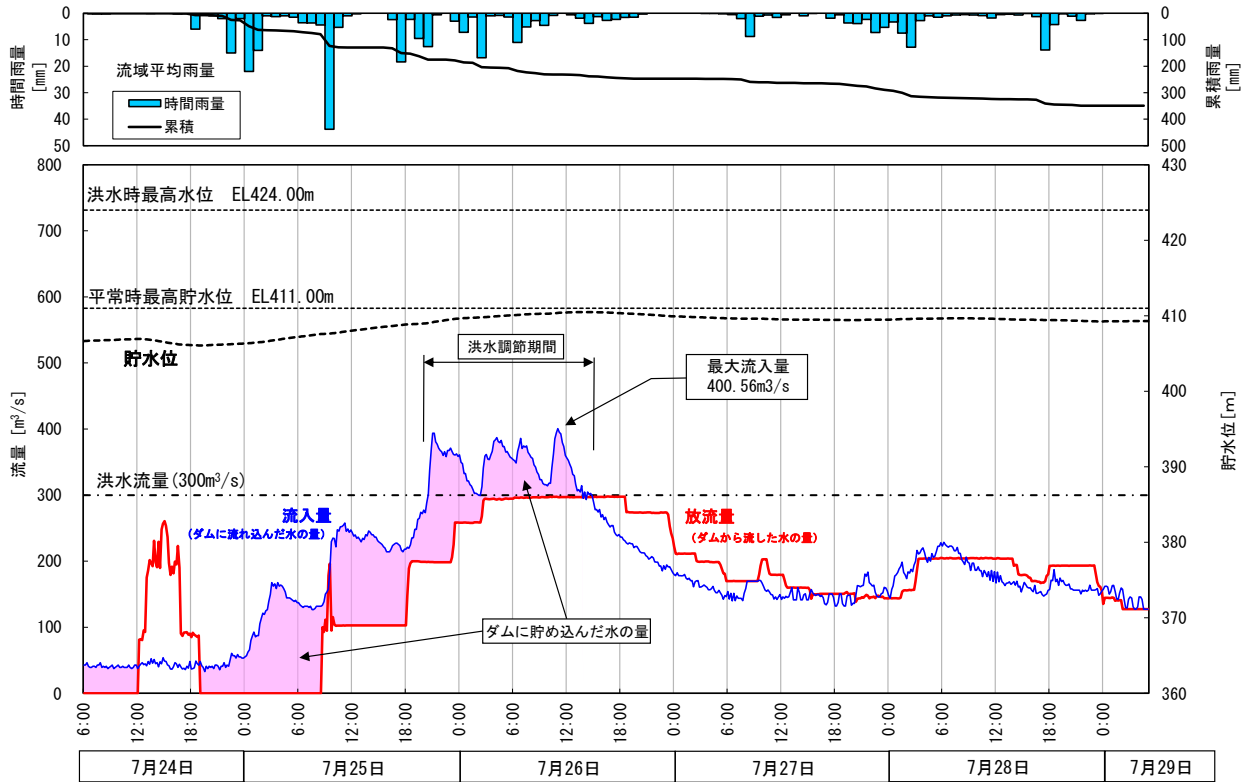
中日新聞社萩原通信局
岐阜新聞社下呂支局
読売新聞社下呂通信部

朝日新聞社高山支局
毎日新聞社岐阜支局高山通信部
シーシーエヌ株式会社

問い合わせ先

みずしげんきこう いわや
独立行政法人水資源機構 岩屋ダム管理所 所長代理 早川
電話：0576-35-2339

岩屋ダム防災操作図 [令和2年7月24日～7月29日 洪水]



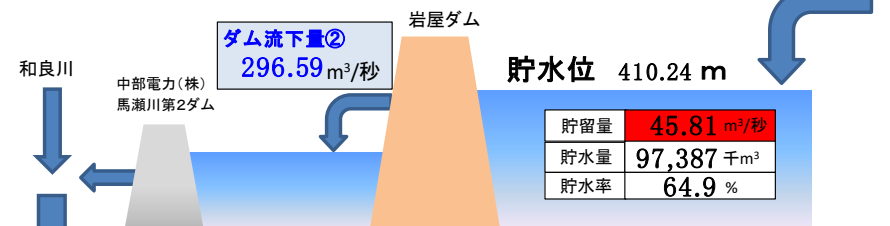
岩屋ダムによる下流河川水位低下効果 (速報)

使用データ時刻 令和2年7月26日 8時30分

【注意事項】

この概略計算は、使用データ時刻における岩屋ダムの貯留量を、同時刻の東沓部地点の流量に加算し、水位を算定したものです。
(実際には、岩屋ダムから東沓部地点まで洪水が流下する時間や、岩屋ダムから東沓部地点までの間に支川流入等があり、あくまでも参考に推定した値です。)

流入量①
342.40 m³/秒



※貯留量=流入量① - ダム流下量②
※貯水率=有効貯水容量における貯水率

東沓部地点 断面図

